



2018年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2018年11月13日

上場会社名 株式会社JMC

上場取引所 東

コード番号 5704 URL <http://www.jmc-rp.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡邊 大知

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 篠崎 史郎

TEL 045-477-5751

四半期報告書提出予定日 2018年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2018年12月期第3四半期の業績(2018年1月1日～2018年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年12月期第3四半期	1,967	85.6	312		319		213	
2017年12月期第3四半期	1,060	5.8	38		31		29	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2018年12月期第3四半期	82.16	77.57
2017年12月期第3四半期	11.24	

(注)2017年12月第3四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2018年12月期第3四半期	3,031	2,056	67.8	786.31
2017年12月期	2,455	1,831	74.6	703.23

(参考)自己資本 2018年12月期第3四半期 2,056百万円 2017年12月期 1,831百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年12月期		0.00		0.00	0.00
2018年12月期		0.00			
2018年12月期(予想)				0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2018年12月期の業績予想(2018年1月1日～2018年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,500	53.5	260		261	810.2	172	982.2	66.11

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2018年12月期3Q	2,615,200 株	2017年12月期	2,604,000 株
期末自己株式数	2018年12月期3Q	50 株	2017年12月期	50 株
期中平均株式数(四半期累計)	2018年12月期3Q	2,604,114 株	2017年12月期3Q	2,601,670 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理性があると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(その他)

第2四半期より、日付の表示を和暦から西暦へ変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第 3 四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、記録的な猛暑や豪雨、北海道地震や台風など大規模な自然災害に見舞われ、一時的に景気回復の動きは鈍化したものの、企業収益の増勢やインバウンド消費の拡大、雇用情勢や所得環境にも改善が見られ、緩やかではありますが回復基調で推移いたしました。

しかしながら、米国トランプ政権の保護貿易主義を巡る各国との貿易摩擦問題、中東・北朝鮮情勢の緊迫化などの地政学的リスクなど、景気を下振れさせる懸念材料も多く存在しており、依然として先行き不透明な状況にあります。

このような経済状況のもと、当社は幅広い業種の試作品から最終製品づくりのトータルサポートを主たる業務としており、自動車産業のEV (Electric Vehicle = 電気自動車) 化に伴う新規部品の試作開発をはじめ、各産業にわたる試作開発の需要は、前事業年度第4四半期会計期間から需要の回復傾向が見られ、当第3四半期累計期間においても需要が堅調に推移しております。

また、試作開発市場においては「短納期」、「高品質」に対するニーズが益々高まっており、当社が展開する「3Dプリンター出力事業」(3Dプリンターによる試作品、各種部品・商品の製造、販売)、「鋳造事業」(砂型鋳造による試作品、各種部品の製造、販売)、「CT事業」(産業用CTの販売及び検査・測定サービスの提供)からなる3事業において「短納期」、「高品質」の強みを活かし、的確に市場の潮流やニーズへ対応してまいりました。

この結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高1,967,843千円(前年同四半期比85.6%増)となり、概ね堅調に推移しました。

利益面においては、売上高増加見込みによる増益、材料費や外注費等の継続的なコスト削減の実施効果、当初計画していた投資コスト及び時期の最適化に向けた見極めを図ったこと等が相まって、営業利益312,128千円(前年同四半期営業損失38,157千円)、経常利益319,912千円(前年同四半期経常損失31,450千円)、四半期純利益213,960千円(前年同四半期純損失29,252千円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、当第3四半期会計期間から、コンセプトセンター(鋳造事業)の産業用CTにおける検査・測定サービスが大きく増加したことに伴い、報告セグメント別の経営成績をより適切に反映させるため、従来は測定していませんでしたセグメント間取引を測定し、セグメント間取引の消去額を調整額に含める方法へと、測定方法を変更しております。これにより当第3四半期累計期間の期首からセグメント間取引を測定する方法に変更したとみなして売上高及びセグメント利益を記載しております。これによるセグメント利益への影響額は軽微であります。

前第3四半期累計期間では、セグメント間取引の消去額を調整額に含める方法に変更したとみなして金額を算出することができないことから、売上高及びセグメント利益は変更前の金額と比較して記載しております。

① 3Dプリンター出力事業

3Dプリンター出力事業におきましては、第1四半期会計期間から継続する堅調な市場環境のなか、展示会への出展やWEBを活用したマーケティング活動を展開し、医療分野を筆頭に多岐にわたる産業分野からの新規及びリピート案件をバランスよく獲得しました。

この結果、3Dプリンター出力事業の売上高は399,384千円(前年同四半期比41.5%増)、セグメント利益は110,076千円(前年同四半期比150.4%増)となりました。

また、2018年8月9日付で「医療機器製造業」、2018年8月28日付で「医療機器製造販売業」の許可を取得したことから、来期以降の新事業展開を見据えた各種準備を行ってまいりました。

② 鋳造事業

鋳造事業におきましては、新工場であるコンセプトセンター第5期棟(長野県飯田市)が、2018年1月初旬に稼働を開始し、当第3四半期累計期間は鋳造工程の製造能力が段階的に向上してまいりました。

また、コンセプトセンター第5期棟の2階には、社内コミュニケーションの活性化と能力開発を支援するため、デジタル学習スペースを備えた従業員ラウンジを新設いたしました。

当第3四半期累計期間は、前事業年度第4四半期会計期間から継続する旺盛な試作及び少量量産市場環境下、益々厳しくなる「短納期」、「高品質」に対する顧客要求へ確実に対応することで、信頼獲得に邁進するとともにEV化案件や高難易度の重要保安部品案件等の受注が堅調に推移いたしました。

この結果、鋳造事業の売上高は1,168,431千円(前年同四半期比75.4%増)、セグメント利益は382,139千円(前年同四半期比263.7%増)となりました。

③ C T 事業

C T 事業におきましては、産業用 C T による高精度な検査・測定サービスの市場が未形成である状況下、当社が長年 3 D プリンター出力事業で培ったデータ作成・解析技術を駆使し、同分野の市場開拓及び技術普及を進めております。また、産業用 C T をミリ／マイクロ／ナノフォーカスという全クラスの装置を保有し、ソフト面、ハード面ともに国内最高水準の検査・測定サービスを提供しております。

当該事業は、同分野のリーディング企業としての立ち位置ゆえに第 1 四半期会計期間から継続的に大型受注を獲得し、順調に業績が伸長しております。

この結果、C T 事業の売上高は462,680千円（前年同四半期比314.4%増）、セグメント利益は104,409千円（前年同四半期比70.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の分析

(資産)

当第 3 四半期会計期間末における流動資産は1,625,457千円となり、前事業年度末に比べ432,802千円増加いたしました。これは主に未収還付法人税等が11,509千円減少したものの、現金及び預金が387,164千円、受取手形及び売掛金が64,786千円、仕掛品が24,872千円増加したことによるものであります。

固定資産は1,405,661千円となり、前事業年度末に比べ143,035千円増加いたしました。これは主に機械及び装置が38,149千円減少したものの、リース資産が125,830千円、建物が11,884千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は3,031,118千円となり、前事業年度末に比べ575,838千円増加いたしました。

(負債)

当第 3 四半期会計期間末における流動負債は605,225千円となり、前事業年度末に比べ256,017千円増加いたしました。これは主に買掛金が73,127千円減少したものの、未払法人税等が113,473千円、短期借入金が105,958千円、リース債務が30,047千円、賞与引当金が23,949千円、未払金が16,486千円増加したことによるものであります。

固定負債は369,564千円となり、前事業年度末に比べ94,659千円増加いたしました。これは主に長期借入金が14,613千円減少したものの、リース債務が102,092千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は974,790千円となり、前事業年度末に比べ350,677千円増加いたしました。

(純資産)

当第 3 四半期会計期間末における純資産合計は2,056,328千円となり、前事業年度末に比べ225,160千円増加いたしました。これは四半期純利益を213,960千円計上し、資本金及び資本準備金がそれぞれ5,600千円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想については、2018年8月10日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました2018年12月期通期の業績予想に変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績予想などの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理性があると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

自動車のEV化に伴う新規部品の試作開発をはじめ、各産業分野からの多種多様な試作開発に係る需要は、前事業年度第4四半期期間以降、当第3四半期累計期間においても活況を呈したまま推移しております。

また、昨今の試作開発市場においては、「短納期」、「高品質」に対するニーズが益々高まっているなか、当社は「3Dプリンター出力事業」、「鋳造事業」、「CT事業」の全事業において「短納期」、「高品質」の強みを活かし、的確に市場ニーズへ対応してまいりました。

その結果、当第3四半期累計期間の売上高は見込どおりに推移しており、第4四半期会計期間においても堅調に推移すると見込んでおります。

また、利益においては、材料費や外注費等の継続的なコスト削減の実施効果や、当第3四半期会計期間及び第4四半期会計期間に予定していた医療機器の製造・販売ビジネスの準備及びCT事業部門の設備増強のための本社オフィス増床、マーケティング強化、人員採用等へ向けた投資計画を修正したことによるコストの最適化を図ったことや、本社オフィス増床が見込より遅延していることもあり、当第3四半期累計期間の営業利益、経常利益及び四半期純利益も順調に推移し、2018年8月10日付公表の通期業績予想の営業利益、経常利益及び当期純利益を上回る結果となりました。

なお、当事業年度に従業員の賞与算定方法を変更し、通期業績に基づく業績賞与を導入いたしました。このため、現時点で当事業年度の通期業績が好調である見込みであることから、第4四半期会計期間に通期業績に連動した業績賞与の引当額を計上する予定であります。

現時点での通期業績見込は、2018年8月10日付公表の通期業績予想を上回る見込であるものの、業績賞与の引当額の計上により、売上原価と販売費及び一般管理費が業績に連動して増加する予定であることから、通期業績予想については2018年8月10日付公表の通期業績予想を据え置くことといたしました。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2017年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	465,260	852,425
受取手形及び売掛金	504,508	569,294
仕掛品	33,589	58,461
原材料及び貯蔵品	57,272	54,042
未収還付法人税等	11,509	—
その他	120,635	91,364
貸倒引当金	△121	△130
流動資産合計	1,192,654	1,625,457
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	655,789	667,673
機械及び装置（純額）	215,528	177,379
土地	116,456	116,456
リース資産（純額）	151,972	277,802
その他（純額）	35,381	81,773
有形固定資産合計	1,175,128	1,321,085
無形固定資産	38,449	32,377
投資その他の資産	49,048	52,198
固定資産合計	1,262,626	1,405,661
資産合計	2,455,280	3,031,118
負債の部		
流動負債		
買掛金	164,733	91,606
短期借入金	—	105,958
1年内返済予定の長期借入金	24,012	20,616
リース債務	53,224	83,272
未払金	88,346	104,832
未払法人税等	7,024	120,497
賞与引当金	—	23,949
製品保証引当金	2,379	3,184
その他	9,487	51,308
流動負債合計	349,207	605,225
固定負債		
長期借入金	113,613	99,000
リース債務	123,110	225,203
資産除去債務	28,602	36,379
その他	9,578	8,982
固定負債合計	274,905	369,564
負債合計	624,112	974,790
純資産の部		
株主資本		
資本金	758,092	763,692
資本剰余金	745,092	750,692
利益剰余金	328,068	542,029
自己株式	△85	△85
株主資本合計	1,831,167	2,056,328
純資産合計	1,831,167	2,056,328
負債純資産合計	2,455,280	3,031,118

(2) 四半期損益計算書
(第 3 四半期累計期間)

(単位 : 千円)

	前第 3 四半期累計期間 (自 2017年 1月 1日 至 2017年 9月 30日)	当第 3 四半期累計期間 (自 2018年 1月 1日 至 2018年 9月 30日)
売上高	1,060,048	1,967,843
売上原価	703,166	1,192,978
売上総利益	356,881	774,865
販売費及び一般管理費	395,038	462,737
営業利益又は営業損失 (△)	△38,157	312,128
営業外収益		
受取利息	9	5
補助金収入	907	7,327
業務受託料収入	8,827	1,799
受取保険料	267	4,776
その他	550	672
営業外収益合計	10,561	14,580
営業外費用		
支払利息	3,850	3,986
為替差損	—	2,733
その他	5	75
営業外費用合計	3,855	6,796
経常利益又は経常損失 (△)	△31,450	319,912
特別損失		
固定資産売却損	0	343
固定資産除却損	—	2,134
特別損失合計	0	2,477
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△31,451	317,434
法人税、住民税及び事業税	2,134	118,252
法人税等調整額	△4,333	△14,778
法人税等合計	△2,198	103,474
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△29,252	213,960

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当第 3 四半期累計期間において、新株予約権の行使により、新株の発行を行いました。これにより、資本金が5,600千円、資本準備金が5,600千円増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	3D プリンター 出力事業	鑄造事業	C T 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	282,267	666,123	111,657	1,060,048	—	1,060,048
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	282,267	666,123	111,657	1,060,048	—	1,060,048
セグメント利益	43,954	105,076	61,079	210,110	△248,267	△38,157

(注) 1. セグメント利益の調整額△248,267千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	3D プリンター 出力事業	鑄造事業	C T 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	399,299	1,106,128	462,415	1,967,843	—	1,967,843
セグメント間の内部 売上高又は振替高	85	62,303	265	62,653	△62,653	—
計	399,384	1,168,431	462,680	2,030,496	△62,653	1,967,843
セグメント利益	110,076	382,139	104,409	596,624	△284,496	312,128

(注) 1. セグメント利益の調整額△284,496千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. セグメント間の内部利益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントの変更等に関する情報

(売上高及びセグメント利益の測定方法の変更)

当第3四半期会計期間から、コンセプトセンター(鑄造事業)の産業用C Tにおける検査・測定サービスが大きく増加したことに伴い、報告セグメント別の経営成績をより適切に反映させるため、従来は測定しておりませんでしたセグメント間取引を測定し、セグメント間取引の消去額を調整額に含める方法へと、測定方法を変更しております。これにより当第3四半期累計期間の期首からセグメント間取引を測定する方法に変更したとみなして売上高及びセグメント利益を記載しております。これによるセグメント利益への影響額は軽微であります。

なお、前第3四半期累計期間では、セグメント間取引の消去額を調整額に含める方法に変更したとみなして金額を算出することができないことから、売上高及びセグメント利益は、変更前の方法により記載しております。

(重要な後発事象)

(重要な設備投資)

当社は2018年10月29日開催の取締役会において、次のとおり静岡県浜松市における新たな生産設備に係る設備投資を決議しております。

(1) 設備投資の目的

当社の鋳造事業の加工工程を拡充するため新工場を建設するものであります。

(2) 設備投資の内容

加工工程の新工場を新たに建設するもので、投資予定額は約6億円であります。

(3) 設備投資の導入時期

2018年12月	土地取得予定
2019年6月	着工予定
2019年10月	竣工予定
2019年11月	機械装置設置予定

(4) 生産活動に及ぼす重要な影響

新工場の稼働開始時期は2019年12月(2019年12月期)を予定していますので、本件土地の取得及び新工場建設による当期の生産活動に及ぼす影響は軽微であります。中長期的には当社の業績の向上に資するものと見込んでおります。

なお、詳細につきましては、2018年10月29日公表の「新工場建設に関するお知らせ」をご参照ください。